



亀中だより

No.24 令和6年10月17日 文責 岡田

For The Students!

みなさんにはこの亀山中学校の図書館がどのように見えているでしょうか。今からおよそ14年前の3月(2011年3月)にこの第1棟新校舎が竣工しました。さらにその前の数年間の中で、この校舎の計画、設計がなされてきたと思いますが、私は、よくぞこの場所に、この素敵な図書館を作ってくれたもんだと、深く感謝しています。あれから15年目を迎えます。今なお、この学校を初めて訪れた人はこの校舎とともに図書館をほめてくださいます。生徒のみんなにとっても、この図書館は誇らしい場所ではないでしょうか。



「月に1冊も読書しない」が6割超 文化庁調査

昨年公表された令和5年度「国語に関する世論調査」(文化庁)では、月に一冊も本を読まない人が6割を超え、平成30年の調査と比較すると15%も増加しているとのことでした。スマートフォンやSNSの普及が原因とみられ、読書離れを顕著に示しているうえ、その影響は国語力そのものにも及びかねないとの指摘があります。



さて、この素敵な図書館を有する亀山中学校の生徒はどうなのでしょう…。亀山中学校では、読書活動の定着を学校経営方針の中でもうたい、一人平均年間で20冊の読書を目指しています。一学期を終えた時点で学校図書館の貸し出し冊数を見ると一人当たり8.13冊(昨年は8.45冊)でした。年間にすると目標の20冊に迫る数字かもしれませんが、例年この時期から3年生の学習時間が増加するためか、貸し出し数が減少する傾向にあります。

「心にとっての読書は、身体にとっての運動と同じである」

この言葉は、アイルランド系イギリス人の作家であり、政治家でもあるリチャード・スティールの名言です。運動不足が身体の健康に悪影響を及ぼすように、読書の不足が心に悪影響を与えるというのです。大人にも子どもにも、ストレスや不安の多い社会となっていることは否めません。だからこそ今の中学生のみなさんには、ぜひ読書の習慣を身につけてほしいと思うのです。読書も運動も、ともに継続してこそその効果も大きなものとなります。運動は続けることで体力が向上し、読書も続けることで知識や読む力が向上します。どちらも一度の試みではなく、継続的な努力が求められます。

継続するためには何が必要なのでしょう。きびしく、つらいことにでも自分の気持ちを奮い立たせて、強い意志の力でそれを継続させていく人も中にはいます。ですが、



大半の人は、この努力の過程で挫折することとなります。だけど読書には、それを継続させる魅力にあふれています。読書から得られる知識や語彙力(ごいりょく)もそうですが、読書が、あなたを見知らぬ遠くの地まで連れて行ってくれたり、過去や未来へ運んでくれたりもします。今の環境では得られない人生観を身に付ける最高の手段です。いわばあなたが“幸せになる”近道がそこにあるかもしれないのです。「読書の秋」です。さあ、みなさん図書館へ行きましょう!